



第3回 JGA ルールテスト 準備ガイド

1. テストの目的

このテストの目的はレフェリー及び競技運営者(以下レフェリーと表記します)としての規則知識レベルを評価することです。そのためテスト内容はレフェリーに必要な知識を中心にデザインされています。

2. テスト内容

テスト時間は 60 分、問題形式は 4 者択一で全 100 問となります。資料を閲覧することが認められます。内容は「2019 年 1 月施行のゴルフ規則のオフィシャルガイド」からの出題となります。なお、IX「プレーの他の形式」規則 21～24 に関しては 1 問だけの出題となります。

テストの内容はレフェリーに必要な知識を幅広く評価するために下記の内訳としています。ただし、この問題数はおおよその数字です。

適用条項問題	20 問
定義/規則用語問題	20 問
基本的な事例の罰打問題	20 問
正誤問題	30 問
委員会の措置・ローカルルールに関する問題	10 問

3. テスト時間 60 分

このテストは受講者に時間的なプレッシャーを与えています。60 分という時間はレフェリーレベルの方にとってはこのテストを終了させるために十分な時間ですが、1 問 1 問をじっくり調べて回答するほどの余裕は与えられていません。なぜならレフェリーにはコース上で十分な時間を与えられているわけではなく、非常に限られた時間の中で正しい裁定をしなければならない能力を求められるからです。

テストは基本問題ができれば 70%を得点できるよう設計されています。出題は難易度順ではありませんので、難しい問題が出たからといって諦める必要はなく、各自の目標に沿ってメリハリをつけて時間を使うことをお勧めいたします。

4. 資料を閲覧することができます。

規則書、オフィシャルガイド、電子機器を含めあらゆる資料も参照することができます。しかし、資料を参照している時間はあまりないことを覚えておいて下さい。レフェリーはコース上ではほとんどの場合、規則書を検索する時間的余裕はありません。基本的な問題は資料を参照せずに解く力が求められます。難しい問題であっても速やかに適切な条項を調べる技術が必要となります。

5. 適用条項問題

規則の条項を覚えることはプレーヤーにとってはあまり意味のないことかも知れませんが、レフェリーにとっては条項の知識は重要です。なぜならすべての裁定に対して根拠となる規則を示す必要があるからです。また適用条項がすぐに分かれば規則書を調べる時間も圧倒的に早くなります。条項を覚えるためには条項番号を暗記することと同時に事例のキーワードを素早く見つけ、それに該当する適用条項を正しく選択する練習をするべきです。

6. 定義/規則用語問題

規則の規定を正しく理解するためには定義や用語を正確に理解しておく必要があります。またレフェリーもコース上で定義の知識をもとに裁定をするケースがよくあります。例えば、モグラの穴は規則上の何に該当するのでしょうか。定義を正確に理解しておかないとこのような問題にすぐに対応することができません。コース上にあるすべてのものが定義の何に該当するか意識して覚えることをお勧めします。

7. 罰打問題

罰を簡単に覚える方法はありません。罰にはすべて根拠となる規則があります。プレーヤーに罰を課すときに「私がそう思うから」、「レフェリーが決めたから」では説明になりません。「規則 9.4 の規定に違反したことによって、規則 9.4 の規定にある 1 罰打が課せられます」といつでも説明できなくてはなりません。したがって、適用規則と罰則は 1 セットで覚える必要があります。また、複数の規則違反をした場合、罰を重課するのか、しないのかについてもよく問題となることがありますので高いレベルを目指すレフェリーは罰の重課の考え方も理解しておく必要があります。

8. 正誤問題

すべての規則の規定、解釈から出題される可能性があり、とくにレフェリーの規則知識が試されるでしょう。規則の規定の内容、解釈を問う問題や、正しい裁定を問う問題、横断的な知識を問う問題など様々な形式で出題されますが、基本的な問題も多いので選択肢を見極めて正解を 1 つ選んで下さい。分からない場合は消去法が役に立つ場合もあります。

9. 委員会の措置・ローカルルールに関する問題

委員会やレフェリーの権限、競技運営に関すること、そしてローカルルールの内容について出題されます。ゴルフ規則のオフィシャルガイドの「委員会の措置」をよく読んでおくべきです。

10. 練習問題

練習問題は本テストと同様の形式で 100 問 4 者択一を 60 分で解くために作られています。また練習問題 C は本テストの 1 月前ぐらいから 1 度だけオンラインで受験でき、オンラインテストを体験することができます。練習問題 D を先に解き、オンラインテストで練習問題 C を体験し、その後、C と D を復習する、あるいは先に C も D も何度も繰り返し解いてみるなど、勉強方法を工夫してみてください。

注 練習問題は本テストの形式と同じですが、その内容が本テストにそのまま出題されるわけではありません。

11. 勉強法

勉強方法は人それぞれで、これといったものではありません。一般的な勉強方法としてはまずスコアのゴールを決めることから始めると良いと思います。S 級を目指す方と B 級を目指す方とでは勉強方法は変わってくると思います。JGA のレフェリーの方(A 級)の一般的な勉強方法の例です(ご参考まで)。

- 条項はすべて暗記する(単語カードなどで)。
- 定義はできるだけ暗記する(チェックシートなどでキーワードを隠して)。
- 練習問題を繰り返して、すべての選択肢の適用条項を確認する。
- 救済エリア、限界、境界などの横断的事項をノートにまとめて覚える。
- オフィシャルガイドを検索しやすいようにカスタマイズする(付箋やメモ)。

レフェリーとして裁定をする場合でも、テストの問題を解く場合でも最も重要なことは「規則上何が起きているのか」という事実問題を整理することです。そのために常に次のことを確認する習慣をつけることをお勧めいたします。

- ① プレーの形式は? …ストロークプレー、マッチプレー、フォアボール・マッチなど
- ② 誰が関連しているのか?…プレーヤー、他のプレーヤー、外的影響など
- ③ 球はどこにあるのか?…ジェネラルエリア、ペナルティーエリア、バンカーなど
- ④ 実際に起きたことは?…球が動いた、事実上確実な証拠はなかったなど
- ⑤ いつ起きたのか?…ラウンド中、スコアカードを提出する前、競技終了後など
- ⑥ プレーヤーの意図…故意だった、偶然だった、テストする目的で、など

12. 最後に

ゴルフゲームの最大の特徴の 1 つはプレーヤーが規則を知って、正しく適用し、自らに罰を課す責任があることです。そしてレフェリーはそのプレーヤーの責任を助ける役目をしますが、レフェリーという立場で競技を運営するのであれば、規則に基づいたフェアなゲームを提供し、プレーヤーに助けを求められたときに正確な裁定をしなければなりません。したがって、レフェリーには常に最新の規則の知識が求められます。

競技で起きる規則上の紛議は、プレーヤーが規則を知らない、誤解していることが原因となっている

場合もありますが、委員会やレフェリーが十分な規則知識がないことによって事態を悪化させていることもあります。このような紛議を避けるための良い方法は規則に精通したレフェリーが競技を運営することです。

JGA では競技運営に重要な役割を果たすレフェリーの規則知識を評価するためのテストを用意し、すでに JGA のレフェリーはこのテストの評価によって選考されていますし、他の競技団体でもこのテストを採用し始めています。

R&A や USGA も独自にルールスクールとテストを持っていてレフェリーを評価していますが、日本国内で、日本語で定期的にテストが受験できるよう JGA も独自のテストを準備し、今回は受験資格を倶楽部のレフェリーや競技運営者にも拡大しましたので是非ご活用いただければ幸いです。

このテストは規則知識だけのテストです。規則知識があるというだけで良いレフェリーになれるわけではありません。しかし、十分な規則知識なしに良いレフェリーになれる可能性はありません。規則知識は良いレフェリーになるための必須の条件なのです。

(公財)日本ゴルフ協会
規則委員会委員長 貝原 剛

ルールテスト受験経験のあるレフェリーの方の声（ご参考まで）

松山浩晃さん

2016 R&A レベル 3 テスト Distinction(90%以上)、2020 第 1 回 JGA ルールテスト最高得点。
ゴルフ場のスタッフとして R&A レベル 1 スクールに参加して以降、独学で R&A レベル 3 テストで Distinction レベル(90%以上)を獲得。現在は長野市のゴルフ練習場・大橋ゴルフガーデンに勤務し、JGA オープンレフェリーとして日本オープンゴルフ選手権等で活躍している。



「競技の現場に携わるレフェリーの方やゴルフ場関係者の方などは、何か問題が起きた時に正しく規則を適用できるよう、規則の知識がある程度の水準を保っていなければならないと思います。そのために JGA ルールテストは非常に有効だと思います。

規則改正で簡素化したとはいえ、ゴルフ規則は複雑です。すべて覚えるなんてことは現実的ではないですが、どこに何が書いてあるか概観を

覚えておくことは大事だと思います。例えば、規則 1~24 があるわけですが、規則 1 は何について定めているか、規則 2 は何について定めているか、といった概観だけでも押さえておけば、何か問題が起きた時に規則書のどこを見れば良いか引き出しやすくなります。すぐに見つけることができれば競技の現場でも何か問題が起きた時に素早く解決できることに繋がります。そういった意味で、規則書などの参考資料閲覧可で限られた時間の中で行うテストは、「規則を覚えている」ことよりも「規則を正しく適用する」実力を量ることができるものだと思います。

私の場合、R&A ルールスクールのレベル 1 テストを受けたことから始まり、日本オープンのレフェリーにも携わらせて頂くようになり、ゴルフ業界に貢献できる嬉しさを感じていますが、規則を勉強することは「ゴルフの精神」を学ぶことにも繋がり、大げさな話、ゴルフ以外の私生活でもその考え方を参考にできる点が沢山あると感じています。

これからテストを受ける方は、まずは規則書（できればオフィシャルガイド）を端から端まで読んでみることをお勧めします。規則には「例外」や「他の規則」に基づいたり参照したり（例えば規則 14.2d 例外は規則 5.7d を参照、等）、といったものが多く、初見ではまず完全には理解できないと思いますが、まずは分からなくても読み進めて、全て読み終えたらもう一度最初から読み直せば、きっと繋がりが見えてきて概観が掴みやすくなると思います。テストのための勉強ではなく、普段のゴルフに活かすために規則を理解しようとするれば、きっとテストの点にも繋がってくるはずです。」

久保由加子さん

2016 R&A レベル3 テスト Distinction(90%以上)、JGA ルールテスト S 級。

R&A TARS(St Andrews)、USGA/PGA Rules of Golf Workshop 修了。JGA 規則普及部会員として R&A ルールスクールの講師や JGA オープンレフェリーとして活躍している。

「私は競技運営やレフェリーをするにあたり、規則の知識を持つことは重要だといつも感じています。レフェリーは規則を適用し裁定をしたり、選手が何か規則で疑問を持たばそれを簡潔に説明することで選手をサポートしますので規則の知識が必要です。また、レフェリーにはその都度起こる状況に対応する判断力や選手に対するコミュニケーション力など様々な能力も必要となります。判断力やコミュニケーション力などを身に付けるには現場での経験が必要なので、規則の知識が高ければすぐによいレフェリーになれるわけではないと思っています。しかし、規則を正しく深く理解できていれば選手のためにできるサポートが増えていくと思いますので、まずは規則の知識を高めることが重要だと考えています。

私が初めて競技委員として競技の現場に立たせていただいたのは JGA のナショナルオープンでしたが、規則の知識不足で自分自身とても苦しい思いをし、現場の皆さんにフォローをしていただきなんとか終えられた未だ忘れる事ができない衝撃のデビュー戦となりました。現場経験はゼロでしたが規則の知識があれば何とか乗り切っていたかもと反省し、そして、今後レフェリーを続けるのなら現場での経験不足を補うためにも規則を勉強しようと思えました。まずは R&A のルールスクールを受講し、その後も期間を空けないタイミングで USGA のワークショップを受講したり JGA ルールテストを受験しています。

定期的にルールテストを受験しているのは私なりの自信を持って現場に立ちたいからです。レフェリーとして現場に出るときはいつも何とも言い難い不安な気持ちになりますが、ルールテストを通じて規則を勉強しレフェリーをするために準備した時間は自信に繋がっていくはずだと思っています。また、ルーリングに対応するためには状況を把握して規則知識をアウトプットする必要がありますが、まだまだ現場での経験不足を感じていますので、規則知識をアウトプットできる力を養うためのツールとしてもルールテストを活用しています。



JGA ルールテストの出題では規則番号を問われますが、規則番号を暗記しておくことは競技の現場で役に立つと実感しています。規則書のどこに何が書かれているか知っていればその場で規則書を開くことができ、不安があればすぐに確認できるからです。

また規則番号を暗記することで規則書が読みやすくなり勉強の効率が上がると思いますので、まずは規則番号を暗記することから始めるのもひとつの方法かと思います。ただ黙々と規則を勉強することは面白くなく難しいと思いますが、ルールテストを活用すれば目標や期限を決めることができモチベーションを保ちながら規則の知識を深めていくことができると思います。私の体験が少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。」